

土壌微生物通信 (1962-1986) 探訪 (1)

「過去」と対話してみませんか？

土壌微生物学会 服部 勉編

博友社 2009 年 5 発行

ISBN 978-4-8268-0211-6 定価本体 1,500 円 + 税

本書は、土壌微生物研究会（現土壌微生物学会）において、1962年に創刊され1986年に終刊となった「土壌微生物通信」の寄稿を選び出し、それを現在の土壌微生物学研究者25名が分担して読んで、過去の研究者と交流、対話する形式で記録したものです。「土壌微生物通信」の主旨・目的は、創刊時において“土壌微生物学者が当面している一番大きな問題は、分散的なお互いの研究をいかにして集中し、論争点や解決すべき課題を明らかにするかということ”（服部勉、創刊号より抜粋）であり、若い研究者が、全国的な意見の交流の中で一層広い視野を持つ新しい型の研究者として育つことは、大変大切との学会員の共通認識から、自由に意見交換する広場・通信を提供することになりました。そして、1986年に、学会の草創・発展期から、充実・新たな飛躍への節目の時期を迎え、“四半世紀前に、新しい時代に向けて発刊した通信の役割を終らせ、今日の新しい世代の方々の新しい創造的試みを期待したい”（服部勉、終刊号より抜粋）として終刊しています。「土壌微生物通信」は、土壌微生物学会の民主的・開放的気風と精神の確立に寄与したとされています。本書で取り上げられた「土壌微生物通信」の寄稿は、20代から60代にいたる当時の研究者たちの思い、悩み、主張や論、海外交流記、先人の回想などの内容のものです。本書にはそれぞれの寄稿の一部が掲載されています。

言うまでもなく、歴史を振り返り、現在と未来の指針とするために思索することは、どんな分野においても大切なことです。また、研究者との直接対話は、論文を読むだけでは得難い体験となる場合があります。研究者同士の議論は学会等で行っていますが、本書は、時間を超えて、四半世紀以上前の研究者と現在の研究者の対話を試んでいます。そこには、目先の目的に追われる日々の連続とは異なる、新たな刺激と思索が展開されています。現在の修士課程の学生も寄稿し、当時の座談会における「問題点的確な指摘」「消極的な意見に対する熱い激励」「激論の展開も恐れぬ姿勢」に共鳴しています。大切な精神が継承されて行く様子が伺えます。

本学会と同じく土壌を対象とする学問分野ですから、

同じような苦悩が見取れます。物理性、化学性は定量的評価が比較的しやすいですが、微生物性は定量的評価が難しく、環境に左右されやすいため、更に困難を伴う部分があるようです。物理性や化学性は、土壌微生物に影響されるのですから、ここでの対話は他人事とは思われません。

近年の分子生物学の飛躍的な発展は、土壌微生物学においても革新をもたらし、従来の培養法で検出されていた菌は土壌において全体のわずか1%に満たず、あまりに多様な微生物がいることがわかってきました。しかし、それらの微生物が土壌中でどんな生活をしているかという「過去」から続く根本的な問いは解決されていません。研究は、学問としてある程度確立された段階よりも、未だはっきりとしない論の段階が熱くて面白いと言われることがあります。暗模索で苦悩する分、魅力的な段階なのかも知れません。

土壌伝染病研究のように、細分化や研究領域の偏りが昭和40年台当時よりもはるかに進む部分がある一方で、土壌中からの地球温暖化ガス発生の研究のような、土壌物理学との関連の強い学際領域への展開も図られていることがわかります。農業技術との関連では、植物は無機養分で生育するから、微生物はいらないじゃないかと考える流れがあったようですが、それに反論する材料、植物と微生物の新しい関係はいくつも見つかってきているそうです。農業と化学肥料漬けの近代農業技術を抜本的に変革するような研究や論を期待したいところです。

私たち土壌物理学会員にとっての基本的関心事である“土壌の物理性”と微生物については、土壌微生物学分野において、非常に重要な位置づけにあることがわかります。「過去」の研究者が、土壌微生物学はまず第一に土壌の微生物の生活している場所の追求から始めなければいけないと語っています。それに応えて、現在の研究者が、微生物の側の解析手法は日進月歩で進歩してきた一方で、土壌のミクロな場の性質の解析はまだまだ進んでおらず、それらがきちんとつながるにはもう少し年月が必要かもしれません、と述べています。土壌の物理性研究者にとっても、大変興味深いところです。

本書は、このように、土壌微生物学分野の過去と現在、そして未来を語っています。本来、研究に境界は無いのですから、ここに書かれていることは土壌物理学会員

諸氏にも何らかの刺激や示唆を与えてくれるでしょう。 試みるのも、面白いでしょうね。
土壌物理学会も、前身の土壌物理研究会設立当初から時
を経て、ある部分は随分と変化したように思います。土
壌物理研究会当時の「過去」の研究者たちと我々が対話し

石黒宗秀 (岡山大学)